

ほのめく

(178) 髪七カ



薩摩郷句

兼題『青年』

バイク好つ七十歳越えてん青年気分

(唱) 若けが言われつ 余計のほせつ

北村虎王

醜青年じゃがどこが良かとかわけ持てつ

(唱) 顔じゃ無ハートじゃつつを見抜つ

満石江吟

醜青年なら心配は要らんち嫁いやつ

(唱) お陰で娘あ 丁寧な目い合つ

二見愚楽満

好青年を鼻ねひつ掛けた気障な奴

(唱) こげん男な 娘あ嫁らならん

西ノ園ひらり

凄ぜ津波頼もし青年ンボランティア

(唱) 嬉し有難て 若け衆の力

植村昭子

大崎短歌会

兼題『芽』

芽という字なせくさかんむりに牙なのと孫に訊かれて暫したじろぐ

大和てるみ

ネコヤナギ赤い小さな芽を出してその可愛いさよ仔猫のように

行騰泰子

眠りより覚めし木の芽の動き初む白黒見ゆるまでわが眼も覚めよ

中崎ハナエ

芽の出ないままの一生と己れをば哀れむ勿れそんなわけない

原田葉子

ひとりでは翼ひろげて飛べぬなり窓細くあけりラの芽を見る

武マツ子

大崎俳句会

野遊びの夫に腕かす重さかな

宮下のし

寒満月座して心の瑞々し

益倉睦美

初雪と亡母に教へて開ける窓

坂元つる子

寒満月旅の終りの濃茶を飲む

内村美恵子

やどかりの色鮮やかに走りけり

宮脇洋子

夜もすがらクレーンと遊ぶ冬の月

折田スズ

人権啓発シリーズ②6

あなたの当たり前が、誰かを傷つけているかも。
～犯罪被害者の人権について考えるための『気付き』のヒント～

- マスコミによる報道は、しかたない。
- 私たちには、知る権利がある。
- 自分は犯罪被害者にはならない。

犯罪被害者にならないと言い切れる人はいません。誰もが、突然に被害者になってしまう可能性があるのです。

もし、自分のことだったらという視点から、何ができるかを考えてみましょう。

今月の表紙



幸せを運ぶ蜂

4月に入ると街中に菜の花や桜が満開に咲き誇りました。どこからともなく蜜を求めて飛び交う蜂や蝶たちが「春だよ」と教えてくれているようです。この蜂を眺められる時間が貴重なことに気付き、蜂たちが幸せを運んでいるように感じました。